

「風の子保育園」の成り立ち

産休明けの共同保育所の 誕生

昭和45年4月、上清水町の民家に、ベビーベットを運んで、赤ちゃん4人と保母2人のとにかく乳児共同保育所らしきものがうぶ声をあげました。

当時清水市では、「子育てしながら働きたい」と願う母親、保母たちでつくった『たんぽぽ共同保育所』の誕生です。

保育料10000円、保母の給料25000円・家賃7000円、経費の不足分は賛助会員のカンパで埋めました。

子どもたちも少しずつ増え、46年3月には9名になり、狭い部屋に子どもたちはひしめき合い、保母の体もボロボロ・・・母親たちは交代で有給を取り代替えに入りましたが、それにも限界があり、とにかく対市交渉をすることになりました。

“運営費の補助をして下さい”“公立で0歳児保育を実施して下さい”と要求し、初めて市から乳母車2台・食卓用テーブル5台の補助を受けることになり、その後、無認可保育所への補助金予算化の道を切り開くことになりました。

昭和49年に、ひまわり共同保育所が誕生しました。

しかし、翌年には、ひまわり・たんぽぽ共同保育所を卒園しなければならなかった1・2歳児のほとんどが入所不許可（この年の公立での1歳児入所は、全保育所でわずか20名）。「どうにかしてほしい」と数回にわたる交渉の結果、古い市営住宅を借りることができました。

ひまわり共同保育所が移転し、新たに定員20名の産休明けから2歳までの共同保育所としてスタートしました。

以来、2つの共同保育所は両輪となって清水の乳児保育を守ってきました。

風の子保育園の成り立ち

2つの共同保育所の父母・保母を中心に市内の様々な人を巻き込んで、「子ども達のがびのび育ち、親も安心して預けられる保育園をつくろう」と建設運動がスタートしました。資金集めから土地探し、建設・保育内容づくりまで建設委員のメンバーがひとつひとつ皆で話しあい、他園を見学したり、学習会・映画会・バザーを繰り返し開催しながら輪を広げ、力を寄せ集めながら運動を進めてきました。

こうして、3年にわたる運動の成果として、昭和54年、国の認可をうけた社会福祉法人成立の『風の子保育園』が誕生しました。

その当時、建設運動にかかわった人達の願いを【私たちのめざす保育園－5つの柱－】として、今でも大切に刻みながら、風の子保育園を支える柱となっています。